

1 基本情報

- (1) 国名：コンゴ民主共和国（以下、「コンゴ民」という。）
- (2) 事業地域名：キンシャサ特別市（人口約 1,800 万人）
- (3) 案件名：キンシャサ市幹線道路ネットワーク強化計画（Kinshasa Urban Primary Road Network Enhancement Project）
- (4) 計画概要：

キンシャサ市において、ユニヴェルシテ通りの拡幅・整備及びンガバ交差点のフライオーバー化を行うことにより、市内道路ネットワークの連結性及び冗長性の向上並びに渋滞ボトルネックの解消を図り、もって交通・物流の円滑化及び経済活動基盤の強化に寄与する。

2 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

コンゴ民は、サブサハラ・アフリカで最大の国土とアフリカ第 4 位の人口を有し、コバルト（携帯電話や PC 等に不可欠なレアメタルの一種）の埋蔵量が全世界の約 55%を占めるほか、銅、ダイヤモンド、タンタル等も埋蔵する世界有数の鉱物資源国である。さらに、世界第 2 位の熱帯雨林面積を誇るコンゴ盆地や世界有数の熱帯泥炭地を有する生物多様性に富んだ国であり、豊富な水資源からエネルギー産業の潜在性も高い多様なポテンシャルを持つ国である。東部地域での紛争といった不安定化の要素がある中でも年率 5%以上の経済成長を見込んでおり、同国との二国間関係の深化は我が国の経済安全保障上不可欠である。

我が国は 2025 年 8 月に開催した第 9 回アフリカ開発会議（TICAD 9）において、アフリカ域内外の連結性強化を表明しており、また同会議における日・コンゴ民首脳会談においては、同国首相から日本の優れた技術に言及しつつこれまでの支援への謝意表明がなされている。運輸交通の円滑化、経済活動基盤整備等の同国の優先課題に対する支援を行うことは、両国間の友好関係を一層強固にすることが期待され、外交的な意義は高い。

- (2) コンゴ民における都市交通セクターの課題及び本計画の位置付け

キンシャサ都市圏は人口約 1,800 万人を擁し、2050 年には約 3,500 万人規模に拡大することが見込まれている。一方で、都市交通インフラ整備の遅れにより慢性的な交通渋滞が発生しており、雨季には冠水による通行障害が頻発し、経済活動や市民生活に深刻な影響を及ぼしている。

JICA が支援した都市交通マスタープラン（PDTK）では、4 車線以上の道路が全体の約 2%にとどまるなど幹線道路の絶対的不足が指摘されている。特にユニヴェルシテ通りは中心商業地区と国道 1 号線バイパスを結ぶ唯一の南北幹線であるが、片側一車線で機能が著しく制約されている。また、ユニヴェルシテ通りと国道 1 号線バイパスとが交差するンガバ交差点は、公共交通結節点であると同時に主要物流ルートと接

続するため、交通が集中し深刻なボトルネックとなっている。PDTK 調査によると、ピーク時の平均走行速度はユニヴェルシテ通りで 0～30km/h、ンガバ交差点付近では通行不能と測定され、市内で最も深刻な渋滞地点とされている。

本計画は、同マスタープランにおいて最優先事業の一つに位置付けられており、幹線道路ネットワークの機能回復と都市交通の円滑化を図るために必要不可欠な事業である。

3 計画概要

* 協力準備調査の結果、変更される可能性あり。

(1) 計画内容

ア 施設・機材：ユニヴェルシテ通り（約 6.0km）の拡幅・整備（車線増設、舗装、排水施設整備等）、ンガバ交差点のフライオーバー建設（立体交差化）、付帯施設（排水施設、交通安全施設等）

イ コンサルティング・サービス：詳細設計、入札補助、施工監理等

(2) 期待される開発効果

- ・ 年平均日交通量（PCU／日）が増加する（基準値：24,800→目標値：52,500）。
- ・ ピーク時の走行速度が向上し、所要時間が短縮する。

(3) 借入人：コンゴ民政府

(4) 被援助国側実施機関：インフラ・公共事業省（Le Ministère des Infrastructures et Travaux Publics）

(5) 他ドナーの動向・ドナー連携の可能性

- ・ アフリカ開発銀行は国道 1 号線整備を実施中であり、国道 2 号線整備を計画。
- ・ フランス開発庁、サウジアラビア開発基金等が幹線道路整備を実施中。
- ・ 中国は PPP スキームにより市内道路整備（Tshilejelu プログラム）を実施中。

(6) 実施体制、運営・維持管理体制

インフラ・公共事業省の監督の下、道路機構（Office des Routes）及び街路排水機構（Office des Voiries et Drainage）がそれぞれ所管道路の運営・維持管理を担う。これら機関は既存道路の維持管理経験を有しており、本計画に係る体制については協力準備調査にて詳細を確認する。

(7) その他特記事項

- ・ 環境社会配慮カテゴリ分類：A
- ・ ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）
- ・ 本邦技術活用の可能性：立体交差における橋梁技術、交通管理システム等の導入を検討。

4 本計画に適用する類似案件の教訓

平成 21 年度対コンゴ民無償資金協力「キンシャサ市ボワ・ルー通り補修及び改修計画」（事後評価：令和 2 年度）では、関係機関間の合意形成不足により事業期間が延長したところ、本計画では意思決定関係者を早期に特定し合意形成の確保を図る。

また、無償資金協力「マタディ港コンテナターミナル整備計画」では関連事業との調整不足により事業実施に支障が生じたことから、本計画では PPP 事業等を含む関

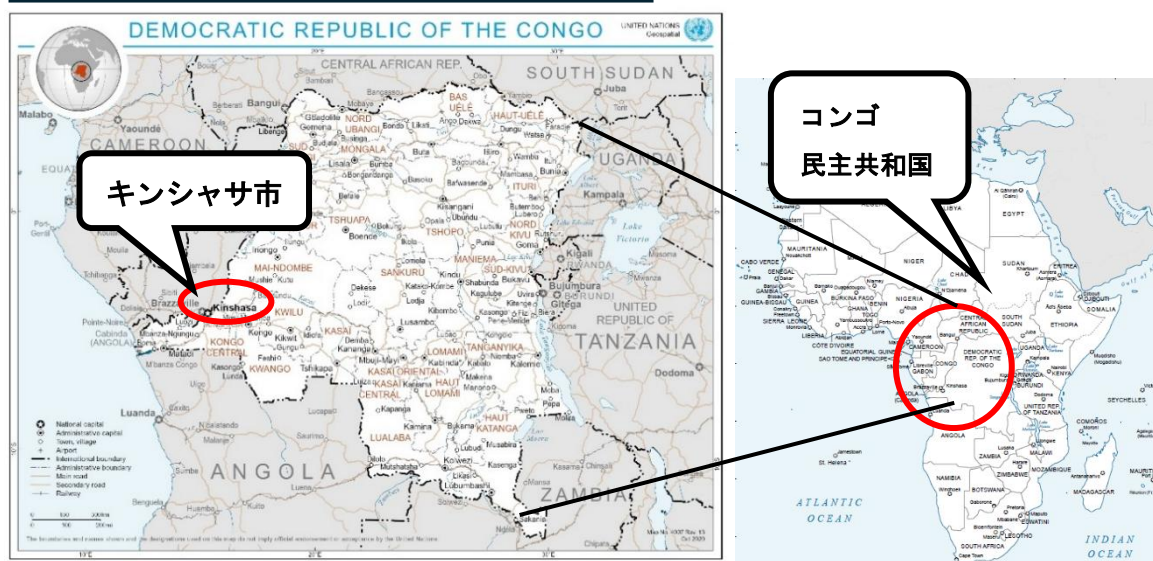
連事業との調整を十分に行い、重複・競合リスクの回避を図る。

以 上

[別添資料] 地図 コンゴ民「キンシャサ市幹線道路ネットワーク強化計画」

地図 コンゴ民「キンシャサ市幹線道路ネットワーク強化計画」

コンゴ民 キンシャサ市位置図



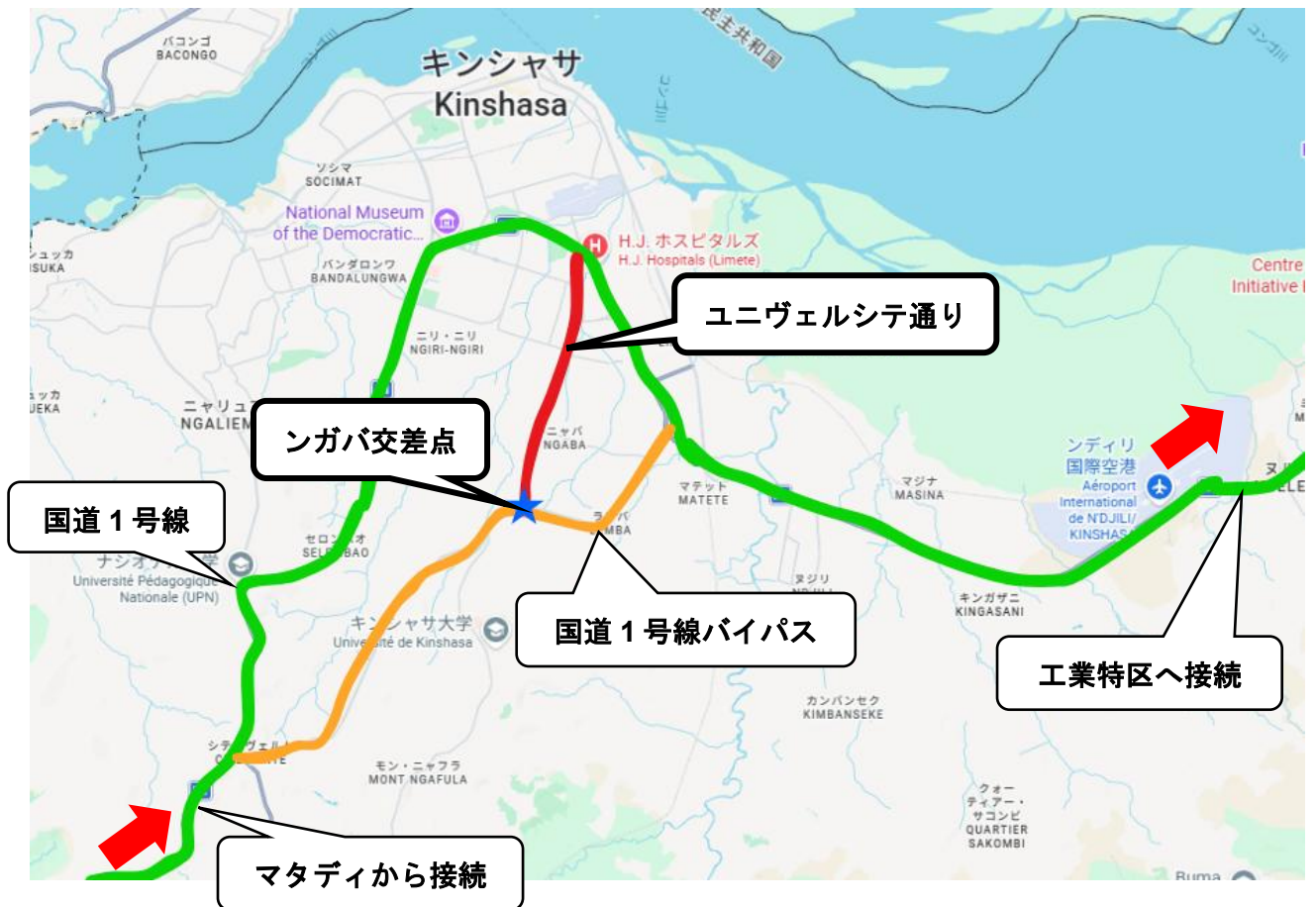
出典：United Nations ([General maps | Geospatial, location data for a better world](#))
より JICA 作成

コンゴ民 マタディ- キンシャサ市位置図



出典：Google Maps (地図データ@2026、Google) より JICA 作成

本計画位置図



出典：Google Maps（地図データ@2026、Google）より JICA 作成